

1. 沖縄県内の全国および院内がん登録、予後調査、生存率計測の実施状況を公開する。

目 標：全国および院内がん登録、予後調査、生存率計測の実施調査の結果を更新し、公開する。

実 績：協議未実施

評 価：0点

2. 院内がん登録をはじめるにあたっての説明会を企画・開催する。

目 標：2018年3月までに、がん専門施設すべてで院内がん登録を実施する。

実 績：協議未実施

評 価：0点

3. がん登録部会の活動を学会報告および実績を論文化する。

目 標：毎年演題を出し、部会委員が発表する。また、学会にて最新情報を収集する。

実 績：

1) 日本がん登録協議会第26回学術集会

開 催 日：平成29年6月8日～平成29年6月10日

会 場：愛媛県医師会会館

演題1) 院内がん登録データを用いることによる子宮頸がんにおける沖縄県立中部病院の沖縄県内での役割

演者1) 沖縄県立中部病院 仲嶺八紀

演題2) 院内がん登録データを用いた市民目線でわかりやすいがん情報の発信ーおきなわがん情報ウェブサイトの開設ー

演者2) 琉球大学医学部附属病院 高橋ユカ

演題3) おきなわがん情報ウェブサイト『みるん・しるん』に関するアンケート調査

演者3) 琉球大学医学部附属病院 高橋ユカ

演題4) 院内がん登録集計データからみる沖縄県のがん診療の動向と現状ー2014年症例ー

演者4) 琉球大学医学部附属病院 高橋ユカ

2) 第19回日本医療マネジメント学会学術総会

開 催 日：平成29年7月7日～平成29年7月8日

会 場：仙台国際センター

演題1) 沖縄県における院内がん登録データの精度分析について 登録精度向上を目指して

演者1) 琉球大学医学部附属病院 高橋ユカ

3) 第43回日本診療情報管理学会学術大会

開 催 日：平成29年9月21日～平成29年9月22日

会 場：札幌コンベンションセンター

演題1) 院内がん登録データを用いて比較分析した子宮頸がんにおける沖縄県立中部病院の治療傾向と県内での役割

演者1) 沖縄県立中部病院 仲嶺八紀

演題2) 2014年院内がん登録集計値からみる沖縄県のがん診療の動向と現状

演者2) 那覇市立病院 平安政子

演題 3) 沖縄県内の院内がん登録データを用いた市民目線でわかりやすいがん診療情報の発信
おきなわがん情報ウェブサイトの開設

演者 3) 琉球大学医学部附属病院 高橋ユカ

4) 第 1 2 回医療の質・安全学会学術集会

開 催 日 : 平成 29 年 11 月 25 日～平成 29 年 11 月 26 日

会 場 : 幕張メッセ国際会議場

演題 1) 院内がん登録データを用いたインターネットによるがん診療情報の提供に関する取り組み
沖縄県内のがん診療情報の均てん化を目指して

演者 1) 琉球大学医学部附属病院 高橋ユカ

評 価 : 8 点

4. 院内がん登録に関する広報活動を行うなど患者目線の情報発信を行う。

目 標 : 多くの県民が、がん登録の情報を知ることができる。

実 績 : 2015 年症例沖縄県院内がん登録集計報告書を作成し、県内のがん専門施設と関係諸機関に
配布を行った。

評 価 : 8 点

5. 院内がん登録実施施設において、院内がん登録情報を定期的に開示する。

目 標 : それぞれが希望する形で登録情報が公開される。

実 績 : 院内がん登録集計報告書を作成するにあたり、報告書の内容改訂に提言、制作協力した。

評 価 : 9 点

6. 院内がん登録実施施設において、予後調査を実地し(生死判明率割合 9 割以上)、生存率を算定する。

目 標 : 各施設で生存率を算定し、公開する。

実 績 : 3 拠点病院(琉大病院、那覇市立病院、中部病院)において、院内がん登録データを用いて 15 部位のがんについて、施設別、部位別、ステージ別の 5 年相対生存率を計測した。生死判明割合が 10%以上のもの、症例数が 29 症例以下のものについては、数値としての信頼性・安定性がな
いため、条件付きで平成 30 年 3 月に発行した院内がん登録集計報告書に掲載した。前年度の 5 年
相対生存率と比較し、生死不明割合が改善し、公開できるデータが増えた。

評 価 : 8 点

7. 沖縄県内で院内がん登録研修会を企画・開催する。

目 標 : 年に 2 回開催し、200 名以上の実務者が参加する。

実 績 : 平成 29 年 7 月に学会発表におけるスライドの作成について、平成 29 年 12 月に血液腫瘍
の院内がん登録について、国立循環器病センターの中村先生をお招きし、研修会を 2 回開
催した。また、登録精度の向上を目的に、院内がん登録を実施している 17 施設を対象と
した院内がん登録勉強会を 2 回開催した。研修会のべ参加人数は約 150 名、勉強会のべ参
加人数は約 50 名。アンケート集計の結果、研修会、勉強会ともに概ね好評であった。

評 価 : 9 点

8. 国立がん研究センターの実務中級認定者試験を受験する。

目 標 : 平成 31 年 3 月までに、がん専門施設すべてで中級認定者が誕生する。

実績：がん登録部会員に認定試験についての情報提供を行い、平成 29 年度は北部地区医師会病院から 1 名中級認定者が誕生した。これにより、がん専門施設において中級認定者がいる施設は、17 施設中 12 施設となった。（前年度は 17 施設中 10 施設）

評価：6 点

9. 院内がん登録データの精度分析を行う。

目標：院内がん登録実施施設すべてで、精度の高い登録がされる。

実績：院内がん登録データを収集し「ステージと進展度の不一致」などの精度分析を行い、各施設にフィードバックを行った。

評価：9 点

10. 拠点病院においてがん診療の質の評価を行い、がん医療の質が向上する。

目標：拠点病院のがん診療の質の評価を行うため Q I の測定・評価を継続的に行う。

実績：2009 年、2011 年の胃がん大腸がんのがん診療の質指標（QI）の計測を行い、経年比較を行い、各施設の臨床医に対してフィードバックを行ってきた。前年度に 2013 年の胃がん大腸がん QI の計測を行い、集計結果について各施設でフィードバックを行った。

評価：8 点